

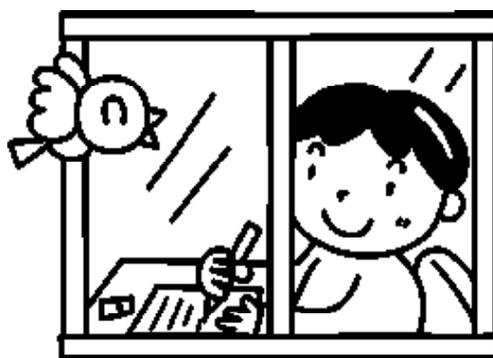
不登校 Q & A

Q1 不登校の前兆を見逃さないためには、どのような事に気を付ければよいでしょうか？

A 前兆の多くは、児童生徒の今までと違う態度や言動・身体的症状として現れてきます。しかも、その変化は、初期であるほどわずかで、やがて少しずつ顕在化してくると考えられます。児童生徒のわずかな変化に気付くためには、日ごろからのていねいな児童生徒の観察・理解がとても重要となります。

【不登校の前兆を見逃さないために教職員に必要な姿勢】

- ◎子どもとふれあう機会を大切にする。
- ◎心のゆとりをもっている。
- ◎お互いに一人の人間同士として子どもと接することができる。
- ◎固定観念をもたず、感性の幅をもっている。
- ◎不登校は、誰にでも起こりうるものだと認識している。
- ◎不登校に対する理解を深めている。
- ◎保護者との信頼関係を築いている。
- ◎アンケートや次ページのチェックリスト（例）を活用する。



Q2 不登校かなと思ったら、どのような対応をすればよいでしょうか？

A まずは保護者に連絡し、日時を相談したうえで家庭訪問をしましょう。支援モデルにあるように、状況を把握し、チームを立ち上げて見立てを行い、支援の方法を決定します。

担任は「自分のクラスから不登校を出してしまった」と落ち込まれるかもしれませんが、気持ちを切り替え、「子どものサインを受け止め、本人がしんどい状況を抜けていくために何ができるか」を考えましょう。定例の相談会議を待たず、臨時に会議を開いて、速に対応することが必要です。

Q3 家庭訪問しても、本人に会うことを拒否されました。どう対応すればよいでしょうか？

A 無理に本人と会おうとせず、保護者と信頼関係をはぐくむことを優先します。また、手紙を出すなどして本人と関係ができてくれば、関心をもっていることについて聴いたり、一緒に遊ぶなど、ともに活動することが大切です。

【様々な不登校の前兆チェックリスト（例）】

○学校での様子	
チェック	項目
	忘れ物が増える。
	表情が暗くなったり、元気がなくなったりする。
	友達と遊ばなくなったり、一人であることが多くなる。
	緊張したりおどおどしたりしている。
	他人を必要以上に気にするようになる。
	保健室に行くことが多くなる。
	頻繁に職員室に来るようになる。
	身体の不調を訴える。
	休み明けや特定の曜日に欠席・遅刻をする。
	特定の教科がある日に欠席をする。
	欠席・遅刻・早退が多くなる。
○学習の様子	
	授業中ぼんやりする。
	文字が乱雑になる。
	学習意欲が低下する。
	成績が急に下がる。
	授業中、元気が感じられない。
○家庭での様子	
	朝、トイレが長くなる。
	登校前にトイレに行くことが多い。
	起こそうとすると不機嫌になったり反抗的になったりする。
	登校の準備に手間取る。
	登校前になると頭痛や腹痛・下痢・吐き気などの身体症状を訴える。
	欠席したとき、登校時刻を過ぎると元気になる。
	家で学校や友達の話をしなくなる・無口になる。
	食欲が減る・偏食がひどくなる。
	夜遅くまで、パソコン・携帯・ゲーム・VTR鑑賞に熱中している。
	外出が減り、自分の部屋で過ごす時間が多くなる。
	母親と離れると不安になる。

Q 4 児童生徒に寄り添うということの意味がよくわかりません。

A 児童生徒の心や感情を否定せず、本人の気持ちを理解し、尊重することを意味します。児童生徒の心の中に、他者に対する安心感や信頼がもてるよう、まずはそのまま受け入れることが大切です。また教員自らが心を開き、素直な態度で児童生徒に接し、児童生徒の善い行動は率直に喜びを交えて認め、不適切な言動については、自分の悲しい気持ちを伝える等まず教員自身が心を開き、自己を率直に話すことが必要になります。

そのためには、日常的に児童生徒一人一人に、積極的な関心とかかわりをもつことが大切です。児童生徒は教員が関心をもってくれていると感じれば、教員に近づいていき、また、親近感をもちます。

Q 5 子どもを指導しなければならないと思うのですが？

A 子どもは信頼できる大人がそばにいれば、今まで甘えられなかった気持ちを表すようになり、自然にふるまうようになります。はじめのうちはそれが行き過ぎることもありますが、次第に自分には何が足りず何を乗り越えねばならないのか、すでに自分もうすうす気付いている自らの問題に直面するようになります。その際、心理的に自立した大人がそばにいて、子どもとともに考え、適切に支えることができれば、子どもは自立していきます。

したがって、時宜を選んで壁になり、子どもが心理的に発達するような指導が求められます。

Q 6 保護者と信頼関係を築くのにもいつも苦労します。何かコツはありますか？

A 保護者の子育て方針が教員自身にとって納得できるものではなくとも、まずは否定せず、保護者の気持ちを受け止めましょう。保護者から不信感を向けられるときは、教師も鍛えられ、信頼関係が深まっていく貴重な機会なので、マイナス面ばかりを捉えず、短時間でもよいので家庭訪問を継続し、そこにある肯定的な動きを捉えましょう。

Q 7 学校に批判的な保護者にはどう対応したらよいのでしょうか？

A まずは保護者の怒りや不満の理由がどこにあるのかを把握し、誠実に対応します。その際、相手の話を十分に聞かないままに学校の方針を分かっただけと力説すると、逆効果になることがあります。

Q 8 不登校とは、児童生徒のどのような状態のことですか？

A 文部科学省では、「不登校児童生徒」を年間30日以上欠席した児童生徒のうちその理由が、学校生活上の影響、あそび・非行、無気力、不安など情緒的混乱、意図的な拒否、及びこれらの複合等であるものとしています。したがって、以下に示す病気や経済的理由等に該当する児童生徒は含まれません。

① 「病気」

本人の心身の故障等(けがを含む。)により、入院、通院、自宅療養等のため長期欠席した者。(自宅療養とは、医療機関の指示がある場合のほか、自宅療養を行うことが適切であると児童生徒本人の周囲の者が判断する場合も含まれます。)

② 「経済的理由」

家計が苦しくて教育費が出せないとか、生徒が働いて家計を助けなければならない等の理由で長期欠席した者。

③ 「その他」

「病気」、「経済的理由」、「不登校」のいずれにも該当しない理由による者または欠席理由が2つ以上あり、主たる理由が特定できない者。

(「学校基本調査の手引き」より)

Q 9 不登校の児童生徒の中には、発達障害の傾向のある児童生徒がいると聞きます。

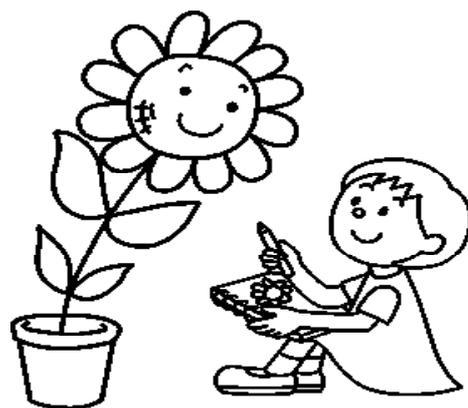
A 発達障害の傾向をもつ児童生徒の中には、人とうまくかかわれず、集団生活が苦手である児童生徒もいます。そのため、自尊心が下がったり、対人関係の不安を抱いたりする場合があります、それが不登校などの不適応行動につながる可能性があります。

児童生徒の状態をよく見極め、発達障害が考えられる場合は、校内の特別支援コーディネーターと連携した上で、外部の専門機関とも連携し、その児童生徒の特性に応じた対応を考える必要があります。

Q10 自分の学級の生徒が不登校になり悩んでいます。どうすればよいでしょうか？

A 自分が担任している学級に、不登校傾向にある生徒がいる場合、「自分の指導に問題があるのではないか」などと、担任の教師自身も悩みを抱えることが少なくありません。このような場合に重要なのが、いつでも組織的な対応を行うという基本に立ち返ることです。

まず、学年主任等を通じて不登校に関するコーディネーター役の教職員(明確に決まっていない場合は学年主任等)と連携を密にします。そして、校内でのケース会議を開くなど組織的対応により、学校全体で集



めることが可能な情報をすべて集め、時には専門家の意見も聞きながらその情報を整理します。その中で、外部機関等の連携等、具体的な対応策をチームで検討していきます。

具体的には、対応の流れについてP8～P9に示していますので、参考にしてください。

Q11 不登校児童生徒の対応には見立てが大切だと聞きます。見立てはどのようにすればよいのでしょうか？

A 見立てとは、その子の生育歴や本人の資質、家庭環境・学校環境などを把握し、「こういう状態でこういう気持ちなんだな」と理解する、その仮説のことです。また、専門的には、その子どもの心の世界の有り様、そのときに直面している発達課題などを理解することも含みます。したがって、見立てをするためには、その児童生徒に深くかかわる必要があります。また、一人の教員の見立てだけではなく、チームで検討するなどして、多角的な視点から考えることが重要です。その際に、スクールカウンセラーなどの専門家と連携することができれば、なおいっそう見立てが深まることが期待されます。

Q12 児童生徒の情報を共有するためには、どのようなものがありますか？

A 長期の不登校では、不登校児童生徒ごとにいつ・だれが・どのような支援を行ったか、そしてその期間、児童生徒や保護者がどのように変化したかという情報を、学年をまたがって、伝えていく必要があります。担任が変わるごとに対応や方針が変わったり、以前の支援の内容が分からなくなったりしないように、校内で共通のツールを用意してください。校内LANで情報を管理する方法や、記録シートで管理する方法が考えられます。必要な事項をシンプルに記録できるようなものがよいでしょう。

○記録シート例

児童生徒氏名 学年・組	年 組 番	担任氏名 対応者名	
日 時	月 日 ()	時 分	～ 時 分
対 応 場 所			
対 応 内 容			
備 考			

Q13 家庭訪問はどのようにするのがよいのでしょうか？

A 不登校児童生徒の支援には、本人や家庭とかかわりをもち続けることが大切です。家庭訪問をすることで、本人や保護者が学校とのつながりを感じる事ができます。ただ、本人が負担に感じるような家庭訪問は避けてください。

目安としては、1回の家庭訪問は30分程度がよいでしょう。また、本人に会うことができたなら、ゆったりとした雰囲気になるよう心がけてください。会えなかったとしても、こちらの気持ちを伝えましょう。

家庭訪問が本人にとって支援になっているかどうかは、本人の表情や様子で判断してください。後日に保護者に様子を聞いてみることもできるでしょう。

本人が家庭訪問を拒む場合は、本人とのかかわり方について別の角度から考え、全く何もしない期間をつくらないようにしてください。

参考資料

○小中連携シート例

小・中連携シート			
児童氏名			担任氏名
欠席状況	4年 日	5年 日	6年 日
遅刻・早退状況	4年 日	5年 日	6年 日
別室登校状況	4年 日	5年 日	6年 日
学校での状況	(欠席の理由・行動の様子・友人関係等)		
学習の様子	(得意科目・不得意科目等)		
家庭での様子	(家族関係・趣味等)		
連絡事項	(支援の様子・連携したい内容等)		